



## 活動日誌

## 1999年(平成11年)

3月 『LAGUNA(汽水域研究)』第6号発行.

5月14日 第32回汽水域研究懇談会

島根県内水面試験場長・中村幹雄氏が「島根県の宍道湖・中海水産振興策について」と題して話題提供. 参加者39名(内学外者30名).

5月29日, 30日 中海・宍道湖研究会主催のシンポジウム『中海・宍道湖の100年間の開発・利用及び環境変化—20世紀から21世紀へのメッセージ』を汽水域研究センターが共催(松江市総合福祉センターにて). 高安克己教授が「中海・宍道湖の立地条件と開発の歴史」と題して講演をおこなう.

(News Letter No.11に記事)



写真1. シンポジウムで講演する高安克己教授  
(1999年5月29日).

6月5日, 26日, 7月11日, 16日 公開講座『斐伊川上流の自然と環境』を仁多郡横田町において実施. 高安教授による「中国山地の生い立ちを探る—斐伊川上流の地質—」, 國井秀伸助教授・星川和夫生物資源科学部助教授による「斐伊川上流の水の生き物」, 竹広文明助手による「鉄の歴史を探る」など, 5名のセンター教官・研究員などが講演した.

6月17日 第33回汽水域研究懇談会

大阪市立大学教授・熊井久雄氏が「大根島の地下水—淡水レンズの不思議—」と題して話題提供. 参加者80名(内学外者60名).

9月1日 田中秀典氏が汽水域研究センター非常勤研究員として着任.(News Letter No.11に記事)



写真2. 公開講座『斐伊川上流の自然と環境』での野外講義(1999年7月16日).

9月27日 第34回汽水域研究懇談会

生物資源科学部教授・相崎守弘氏が「どうなる? 中海の水質」と題して話題提供. 参加者25名(内学外者15名).

10月21日 第35回汽水域研究懇談会

汽水域研究グループ・神谷 要氏が「ラムサール条約から測る本庄水域の価値」と題し話題提供. 参加者21名(内学外者6名).

10月21日 第36回汽水域研究懇談会

中国科学院南京地理湖沼研究所(湖沼堆積環境研究所長)教授・王(Wang Sumin)氏が「中国の湖沼研究の進展と課題」と題して話題提供. 参加者17名(内学外者6名).



写真3. 第36回懇談会で話題提供するWang Sumin教授  
(1999年10月21日).

10月30日 汽水域研究センター自己評価報告書『島根大学汽水域研究センターのあゆみ』を刊行.

10月31日 第37回汽水域研究懇談会(JSA市民講座と共同企画)

汽水域研究グループ・國井秀伸氏が「生物のすみかとしての本庄工区」と題して話題提供. 参加者15名(内学外者10名).

## 11月12日 第38回汽水域研究懇談会

島根大学名誉教授・伊達善夫氏が「中海干拓・淡水化と水質予測—35年にわたる事業をふりかえって—」と題して話題提供. 参加者34名(内学外者24名).



写真4. 第7回汽水域研究・山陰地域研究発表会で発表する國井秀伸助教授(2000年1月12日).



写真5. 第7回汽水域研究・山陰地域研究発表会で発表する竹広文明助手(2000年1月12日).



写真6. 第7回汽水域研究・山陰地域研究発表会で発表する田中秀典非常勤研究員(2000年1月12日).

## 2000年(平成12年)

1月12日 第7回汽水域研究・山陰地域研究発表会  
延べ42名の発表者により15題の研究が発表された.

1月25日 汽水域研究センター外部評価委員会開催. 外部評価委員として, 湊 秀雄東大名誉教授, 沖野外輝夫信州大学教授, 松井 章奈良国立文化財研究所主任研究官, 稲田 光島根県農林水産部長が出席(委員長:湊 秀雄氏).

(News Letter No.11に記事)



写真7. “汽水域計測サミット”で研究報告する徳岡隆夫センター長(2000年2月23日).

2月23日 汽水域研究センター・地域共同研究センター共催討論会『汽水域(とくに中海・宍道湖)の環境観測の現状と計測機器開発—“汽水域計測サミット”—』(総合理工学部にて)が開催される. 延べ17名により14本の研究報告がおこなわれる.

(News Letter No.11に記事)

3月20日 『島根大学汽水域研究センター外部点検・評価報告書』刊行.

3月 News Letter No.11発行.

3月31日 徳岡隆夫総合理工学部教授が汽水域研究センター長の任期満了.

4月1日 高安教授が汽水域研究センター長に就任.

## 文部省科学研究費の交付

### 平成11年度科学研究費補助金

#### 科学研究費

基盤研究(B)大学間協力研究「ヒマラヤ形成と地球環境変化—ヒマラヤ研究所設立にむけての協力研究」(継続, 研究代表者; 高安克己)

奨励研究(A)「旧石器, 縄文時代における隠岐産黒曜石の獲得と利用」(継続, 研究代表者: 竹広文明)

### 地方公共団体, 民間企業等との 受託研究および共同研究

#### 1999(平成11)年度

(奨学寄付金)

クローバテック(株)「塩分躍層探査装置の開発研究」(研究代表者; 徳岡隆夫)

出雲グリーン(株)「塩水楔の動態観測手法の開発研究」(研究代表者; 徳岡隆夫)

日本ミクニヤ(株)「河川-海岸における破屑物質の挙動の研究」(研究代表者; 徳岡隆夫)

(その他)

(助)ホシザキグリーン財団「宍道湖・中海周辺の水域における絶滅危惧植物の実態調査」(研究代表者; 國井秀伸)

全労済「宍道湖・中海周辺における汽水性絶滅危惧植物の分布図作成」(研究代表者; 國井秀伸)

(助)河川環境管理財団「斐伊川水系における水生植物並びに付着藻類の流程分布と環境要因」(研究代表者; 國井秀伸)

島根県教育委員会「朝酌川改修に伴う発掘調査ほか島根県内遺跡発掘調査の調査指導」(研究担当者; 徳岡隆夫, 高安克己, 竹広文明)

島根県古代文化センター「風土記調査」(研究担当者; 高安克己)

宍道町「宍道町史編纂事業」(研究担当者; 高安克己)

米子市「米子市史編纂事業」(研究担当者; 竹広文明)

広島県蒲刈町「蒲刈町誌編纂事業」(研究担当者; 竹広文明)

## 編集後記

今度こそは予定通りに発行を, と努力しましたが, またしても皆様にお届けするのが大幅に遅れてしまいました. 申し訳ありません.

第7号には韓国からの投稿やタイのソクラー湖のレポートなどが掲載され, 汽水域研究もようやく国際的に視野が拡大してきた感があります. 次号にも最新の調査・研究成果をご寄稿いただけることと期待しています.

汽水域研究センターは時限9年目を迎え, 改組にむけて議論を重ねているところです. この「LAGUNA」誌についても, 先に行われた自己点検, 外部点検・評価をふまえて, 発行形態や体制など根本的なところからの見直しを行っています. これについても, どうぞ皆さんの忌憚ないご意見をお聞かせ下さい.